



# 地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成27年度 きこえとことばの基本研修会



## 第1回 「聴覚障がい児の指導における配慮」

5月27日(水)に第1回きこえとことばの基本研修会が行われ、飯塚和也教諭が「聴覚障がい児の指導における配慮」について話をしました。

### 講義の主な内容

言葉を獲得していくための配慮

- ① 聴覚障がいへの配慮
- ② 情報への配慮
- ③ 言葉を育てるための配慮

### 《なぜ、聴覚障がい児は言葉が育ちにくいのか》

音声言語

耳から聞いて覚える言葉

補聴器や人工内耳の効果と限界・・・ 読話の効果と限界・・・

言葉を獲得するための様々な配慮が必要

チェック!

### 聴覚障がいへの配慮

- ①補聴器はベストの状態に！  
電池、イヤモールド・補聴器の汚れ  
フック・チューブの水滴等の点検
- ②オーディオグラムを読む  
聴力検査 聴力の変動を確認
- ③五音テストの実施(u a i f s)  
1mの距離で普通の声で確認  
「u a i」可聴→低音域～1KHz○  
「f」可聴→2KHz付近は○  
「s」可聴→4KHz付近は○
- ④発音指導  
明瞭度だけでなく読話力も伸ばす。
- ⑤聴覚学習  
音のON-OFF、弁別、識別、理解
- ⑥手話の力をつける

## 聴覚障がい児への配慮

### 情報への配慮

- ①音環境の整備(雑音を減らす)  
机いすの脚にテニスボールを装着
- ②補聴援助システムの活用  
・全校集会での活用  
・マイクが1本の時は、話し手に回す  
・こまめにミュートにし衣擦れ音等を防ぐ
- ③視覚的な情報保障  
手話通訳、要約筆記、音声文字化する支援ツール「こえみる」の活用



### 言葉を育てるための配慮

- ①口声模倣・拡充模倣の促し  
共感関係を基盤に
- ②一次的言葉(具体的)から二次的言葉(抽象的)へ
- ③二次的言葉をどう育てるか  
・言葉を言葉で説明したり、文の形で話す習慣づけ  
・太った言葉(いろいろな概念の言葉)を育てる  
・言葉を思考させる話しかけ  
・言葉のまとめ、韻律情報を利用。あえて新しい言葉を使う  
・視覚的手段による確認  
・日記(絵日記)、読書習慣の確立  
・話し込むこと

### 参加者の感想

- ☆初めて難聴児を担当し試行錯誤の毎日ですが、なぜわかりにくいのか、言葉が定着しないのかが分かり、子どもの理解につながりました。
- ☆初めて難聴学級の担当となり不安の中でスタートしました。誰に相談すればよいのか分からない毎日でしたが、今日第1歩の場所を見つけたような気がします。
- ☆初めて難聴児を担当する者にとっては専門性の高い話でしたが、話し方、発音指導など、参考にしたいです。